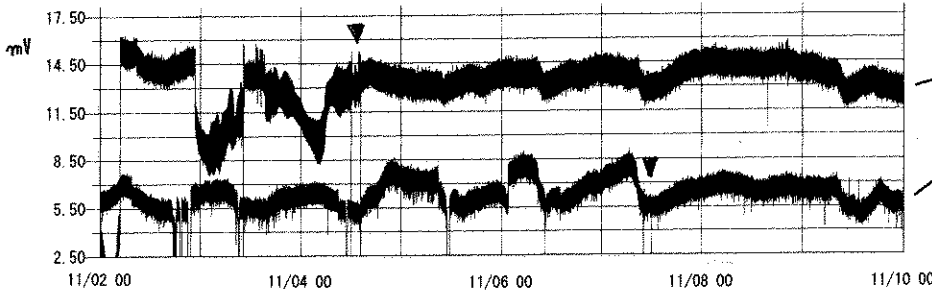


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778前兆続報 CH02/CH21 9日間静穏持続 STAGE-24の前兆半減
11月末前兆静穏化の場=12/7± 12月初旬前兆継続では 12/21± 可能性



CH02=11/4昼過ぎの変動を最後に12日間静穏完全静穏化認識 本日現在も静穏基線

CH21=11/7昼前の変動を最後に9日間静穏完全静穏化認識 本日現在も静穏基線

▽印が最後の微弱前兆変動認識

前続報段階では、No.1778長期継続特殊前兆の第24ステージ（現在の段階）の前兆の関係から、第24ステージが示す時期は、早い場合で12月21日±の可能性があると報告させて戴きました。

しかし、上波形基線のとおり、長期に渡り前兆変動を記録していた八ヶ岳南麓天文台に設置してあるCH02とCH21観測装置の基線が11月上旬に相次いで前兆が終息し、静穏正常基線に復帰致しました。

本日 11/16現在も正常基線を記録中であり、前兆は終息し、完全静穏化した可能性が高いと認識されます。このことから、最終変動(CH21 11/7.5)を終息として、対応する極大を検討しますと、早い場合で考えた場合、(Tmap:Tpp=3.9:1 経験則使用)
7/5.8(CH29-PBF極大) → 11/7.5終息 → 12/20±
8/10(CH29, 2, 21等) → 11/7.5終息 → 12/7±
の可能性が示唆されることとなります。

ここで可能性として出て参りました12/7±について検討しま

すと、左下第24ステージ前兆出現状況図に記入したとおりの前兆関係から12/7±の可能性も否定はできない状況が見えます。

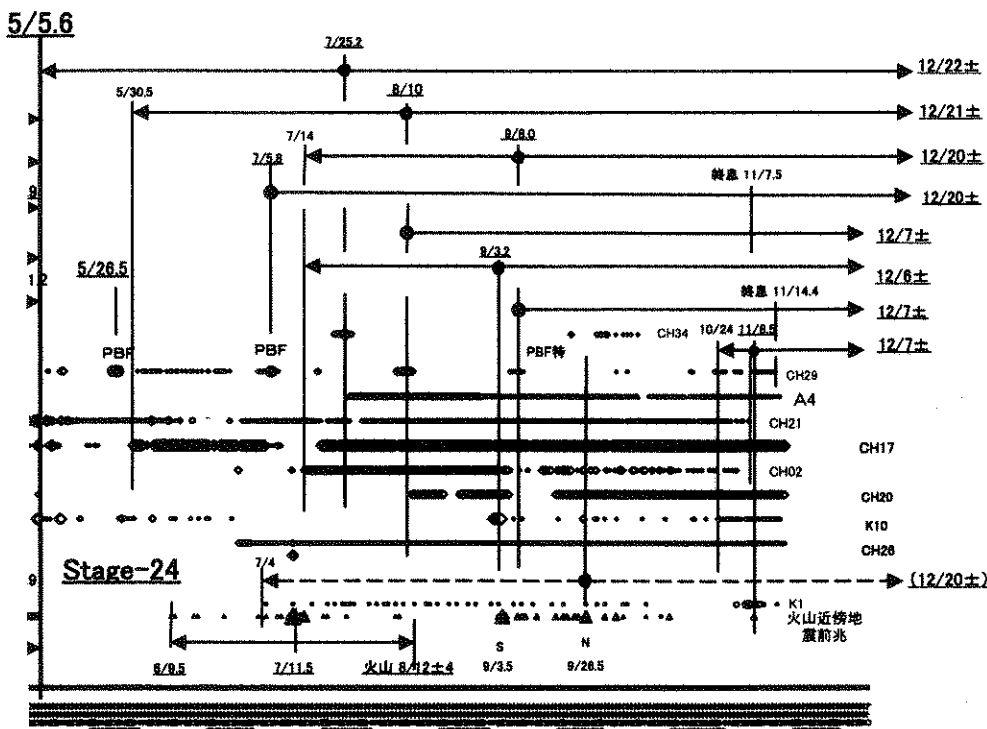
その後、11/14.4に八ヶ岳南麓設置のCH29が静穏化した可能性(9/8 CH29極大~ 11/14.4静穏化で計算した場合=12/7±)もあります。今後CH29が再出現する場合は無効となりますが、12/7±の可能性を支持する変動変化である可能性もあります。

今までの各ステージが示す日直前でも幾つかの前兆が継続し示された日が実際の地震発生日ではなく、次ステージの極大出現となる様な関係も見えましたため、今回の第24ステージが示す日が実際の地震発生日となるか否かは、前兆の完全終息が観測されるか否かで判断できます。

11/8.5にK1特異集中出現で極大認識ができますので、これが仮に最終極大である場合は、12/7±の場合=11/29.9±終息予測
12/21±の場合=12/10.3±終息予測
となりますので、12月初旬段階で前兆が完全終息した場合は、12/7±、前兆継続の場合は12/21±の可能性が示唆されます。

実際の変化は続報で報告させて戴きます。
※12/7±の可能性についてはE-mail及びFAXで日々配信の観測情報では11/2段階で報告しておりました。お許し下さい。

- ◆推定規模=M7.8±0.5 (地殻地震)
- ◆推定領域=下図 斜線領域内可能性高 (可能性低い認識だが、前兆出現原因影響) (局誤認の場合=福島中心領域の可能性有)



2017年5月 2017年6月 2017年7月 2017年8月 2017年9月 2017年10月 2017年11月 2017年12月